

2019年度 春期拡大研修会

テーマ「敗血症とDIC」

岐阜大学医学部附属病院 藤本 伸吾

令和元年6月2日(日) OKBふれあい会館において、令和元年度春季拡大研修会を開催致しました。当日は晴天にも恵まれ、岐臨技会員108名、賛助会員13名の参加がありました。

今回の研修会は、メインテーマに『敗血症とDIC』と題して、微生物部門からは岐阜県総合医療センター感染症内科医長の鈴木純先生、血液部門からは愛知医科大学病院血液内科教授の高見昭良先生をお招きして研修会を行いました。

鈴木先生には、感染症内科医の立場から敗血症とDICについて自験例も踏まえて診断から治療まで詳しくご説明いただきました。

高見先生には、凝固反応の基礎からDICの病態・診断について大変分かりやすくご講演いただき、知識の研鑽を積むことができました。

ランチオンセミナーではシスメックス株式会社 相原孝至先生『凝固検査から見た敗血症とDICについて』、株式会社日立ハイテクノロジーズ 三浦哲男先生『VerigeneR システム 敗血症パネル』についてお話しいただきました。

市民公開講座においては、味の素株式会社の安東敏彦先生をお招きしてアミノインデックスという技術を用いたがんや生活習慣病などの疾患リスク評価について、種々のデータを基に詳しくご説明いただき、興味深い内容であり皆様熱心に耳を傾けておられました。

最後になりますが、今回の研修会が盛況にて無事終わることができたのも実行委員・技師会役員の皆様方のおかげです。この場をお借りして深く感謝申し上げます。



定 時 総 会

会長 浅野 敦

6月2日の春季拡大研修会後に定時総会を執り行いました。

平成30年度の事業報告および決算報告に対して、会員の皆様にはご理解のうえご承認いただきましたことに感謝申し上げます。この際、会員から「今年度、中部圏支部学会を岐阜県が担当するが、県技師会の支払い負担は発生するのか」と質問をいただきました。これについては、学会参加者数や懇親会参加者数に大きく左右されると認識しております。現時点では判断しかねますが、状況により相応の支払い負担が発生する可能性があります。会員の皆様へは、多くの方が学会へ参加していただきますようお願い申し上げる次第です。

さて、今年度も昨年同様、多くの事業を展開する予定です。個人のスキルアップはもとより、臨床検査技師が医療スタッフとして必要不可欠であることを医療業界や一般社会にアピールする場面であり、岐阜県臨床検査技師会の組織力向上にも繋がると信じています。今後も変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

交 流 会

令和1年6月2日（日） 春季拡大研修会の後、岐阜駅前にて懇親会を開催しました。44名の参加があり、2時間という限られた時間の中でしたが沢山の方とお話する事ができました。参加して下さった方々、準備から当日の盛り上げまで引き受けて下さった大垣市民病院の方々に心より感謝申し上げます。楽しい時間を過ごすことができました、ありがとうございました。

ベテラン技師から新人技師まで、参加者は様々でした。普段ではわからない姿を見ることができましたし、こんな場所でしか喋ることのできない方とお話しすることもできました。なかなか実現するとこの出来なかった交流会が実現でき、交流が深まりました。今後も続けて開催していけたらと思います。

年齢も経験も関係なく気軽に参加できる場所です。ぜひ、今回参加できなかった方々も次回開催時参加してみてください。また次回も大垣市民病院の皆さん、よろしく願いいたします!!

渉外部 柴 千春



2019年度 功労賞 & 永年職務精励賞

功労賞を受賞して今思うこと

JA 岐阜厚生連

岐阜・西濃医療センター 西美濃厚生病院

川島 直樹



この度は、私の定年退職に合わせて岐阜県臨床検査技師会より大変栄誉ある功労賞を頂きありがとうございます。勤続年数37年あまり長く勤務して、表彰に値する功績は思いありませんが、これも岐阜県臨床検査技師会での多くの活動に参加させて頂き、多くの方の支えがあったからこそその受賞と感謝申し上げます。

就職した当時から現在まで、少し臨床検査を振り返ると技術の進歩は目覚ましく、検査の自動化・電子情報化・遺伝子検査解析など多くの変革の時代がありました。現在も新しい変革の時期であり、医療法改正による検査の精度保障や、多職種連携の参加、これからの在宅での検査、がんゲノム医療やAIなど目まぐるしく変わる時代が訪れます。

今後、臨床検査技師の役割がさらに広がり臨床検査技師の重要性がさらにますますと思われまます。研修会や学会、技師会活動にて多くの若手技師が頑張っている姿を拝見しますが大変心強く感じます。今後の多くの若手技師の活躍に大いに期待いたします。

私は、4月以降も西美濃厚生病院にて再雇用にて勤務を続けて参りますので今後ともお付き合い頂きますよう宜しくお願い致します。



功労賞 (敬称略・五十音順)	
川島 直樹	J A 岐阜厚生連 西美濃厚生病院
諏訪 浩	
永年職務精励賞 (敬称略・五十音順)	
今吉 由美	大垣市民病院
奥村 佳子	一般財団法人 総合保健センター
鈴木 由佳利	医療法人清光会 岐阜清流病院
内藤 斉	J A 岐阜厚生連 岐北厚生病院
中川 篤	岐阜大学医学部附属病院
長屋 麻紀	岐阜県総合医療センター
松本 信子	高山赤十字病院
森田 恵理	岐阜赤十字病院



永年職務精励賞 奥村 佳子様



功労賞 川島 直樹様



新人サポート研修会を終えて

学術部長 渡邊宜典

去る5月26日、令和最初の「新人サポート研修会」が岐阜医療科学大学にて開催されました。

8部門による新人向けの講義がなされました。またランチオンセミナーでは、シスメック株式会社、アークレーマーケティング株式会社の協力が得られました。

今回、部門ごとの講師は比較的若手の起用が多く、新人教育を経て施設の一員として活躍し始めた技師たちが、年齢の近い新人や学生を相手に同じ目線で講義をされていたのが印象的でした。受講者によるアンケート調査にも理解しやすかったとの意見が多く、今後の研修会をより充実していくための大きなステップになったと確信できる結果でした。

一方で、緊張もあってか質問が近年少ない感がありました。新人はたくさんの知識を吸収し、それを実務に活かせるだけのキャパシティが大いにあると私は信じています。活発な質疑応答を望みます。これは主催者側の企画不足もあるかもしれないため、今後の課題として取り組みたいです。

参加者内訳は、一般会員が69名、学生18名の合計87名でした。

最後に研修会場の提供や、会場設営をして頂いた岐阜医療科学大学の高崎先生・学生の皆様、会員講師をお願いした各部門の先生方に厚く御礼申し上げます。



令和元年5月26日に開催された新人サポート研修会では、様々な部門の基礎知識を学ぶ事が出来ました。

その中でも特に印象に残ったのは、臨床一般部門における尿一般検査の基礎です。この研修会が行われた時、私は病院で尿沈渣鏡検を始めた時期で、糸球体型の赤血球・ビスケット型のシュウ酸カルシウム結晶・無晶性塩・菌糸の见えない酵母様真菌の違いや、白血球と細胞質内封入体の見分け方など大学で学習して得た知識だけではなかなか判断できないものばかりで、とても苦戦していました。しかし、野村先生の講義のおかげで、沈渣の見かたを細かく学ぶ事が出来ました。定性試験から沈渣の結果を推測し、患者様の病態を考えるとということも学ぶ事が出来ました。

他の部門においても一つの視野で考えるのではなく、もっと広い視野で見て考えるということを学ぶ事ができ、自分のスキルアップにつなげることが出来ました。

この研修会で学んだ事をこれからの仕事に生かしていきたいと思ひます。



私が新人サポート研修会を受けて一番印象的だった講義は、小路達也先生の心電図検査についてです。私は生理検査室に所属しており、心電図検査を行うこともあります。しかし、経験不足で波形の判読にまだ自信が持てません。なので、心電図の刺激伝導系や心電図波形の成り立ちなどの心臓の構造に関わる説明や電極の誘導や波形についての検査に関することまで説明していただくことができ、これからの心電図検査に活かすことができると思ひました。特にためになったのは、緊急を要する心電図波形についての説明です。私たちの業務では、独歩の方から救急車で運ばれてきた方まで様々な方の心電図をとります。その中で今回学ぶことができた緊急を要する心電図に出会うこともあると思ひます。



この時に適切な対応ができるように、日々心電図波形を判読する努力をしたいと考えています。また、この講義をきっかけに緊急の心電図だけでなく、様々な心電図についてより勉強していきたいと思ひます。最後にはなりましたが、このような場を企画・提供して下さった先生方にこの場をお借りしてお礼を申しあげたいと思ひます。本当にありがとうございました。

岐阜県総合医療センター 八竹 基哉



新人サポート研修会に参加して、採血を含む各分野について講義をしていただきました。これから当直業務が始まる私たち新人にとって、各分野の基礎的な知識を1日で学ぶことができ、とても有意義な時間となりました。

私が特に印象に残ったのは、尾崎洋平先生の「生化学免疫検査の基礎」の講義です。検査値に影響を及ぼす要因について、実際の事例も交えて細かく教えていただきました。他の検査にも共通して言えることですが、測定結果が信頼できるものかどうか判断するのが検査技師の役目であり、そのためには検査値に影響を与える要因と対処について理解することがとても重要であると感じました。そして、誤った結果を絶対に臨床に送らないためにも、これから知識と経験を積み重ねていきたいと思いました。



最後に、今回の研修会にご尽力いただきました皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

木沢記念病院 村田 真一

検体検査に配属され約2カ月がたち、検体受付などの最初の業務を安定してこなせるようになりました。また、5月中盤あたりから採血業務も始まりしました。ある程度気持ちが落ち着き、これからさらに新しいことを覚えていくこの時期に、今回の研修会に参加し、採血のやり方、検体の取り扱い方、検査の基礎的な知識の復習と検査データの見方を学ぶことができ、今後の業務に役立てることができると感じました。採血業務はまだ始まったばかりですが、もう一度、採血手順や手技を再確認することができ、特に穿刺部位を決定する条件がとてもためになりました。検体の取り扱い方では、検体に不備があれば検査にどのような影響が出るのか、正しい検体採取、処理をしないと検査にどんな影響が出るかなどを再確認することができました。検体を取り扱う検査で、正しい検査データを臨床に送るためには、検体処理を正しく行うこと、検査方法を正しく理解すること、検査結果を読み取る力が必要であるということを学びました。今回学んだことを生かして、自分のスキルアップにつなげていきたいと思っています。

最後に、今回新人サポート研修会を開催していただいた方々、また講演していただいた方々に心より感謝申し上げます。





第58回中部圏医学検査学会（岐阜）進捗について

実行委員会

第58回中部圏医学検査学会の開催に向けて、実行委員一同鋭意準備中です。3月末に賛助会員（企業）様に広告協賛趣意書を送付しました。ご協力いただけるようお声掛けいただければ幸いです。広告・協賛についてもまだまだ予定数に到達していない現状です。現在までの状況につきましてはお近くの実行委員、学会事務局までお問い合わせください。

4月20日に学会案内冊子、ポスターを各施設に発送し、“演題募集”が開始となっておりますが、6月16日現在「77演題」です……。目標「150演題」です！

演題募集は6月30日まで延長とさせていただきますし

た。岐臨技会員からの多数のエントリーをお待ちしております！

会場、プログラムの準備もすすめており、逐次学会HP上に掲載していく予定ですのでご確認をお願い致します。そろそろ実務委員を募集させていただき、会員の皆様にご協力いただく時期になってまいりました。一緒に学会を盛り上げていただきたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。準備・運営に関するご意見・ご質問がありましたら学会事務局までお寄せいただければと思います。

第8回実行委員会は6月末に予定しております。

第58回中部圏支部医学検査学会

<http://58chubu-kensa.net/>

テーマ

飛躍

～“臨床検査”、さらなる展開に向けて～

岐阜城 (写真提供: 岐阜市)

2019年
会期 **10月12日(土)・13日(日)**

会場 **長良川国際会議場 岐阜都ホテル**

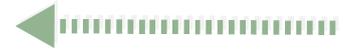
学 会 長: 浅野 敦 (大垣市民病院)
実行委員長: 高崎 昭彦 (岐阜医療科学大学)
事務局長: 乙訓 貴之 (岐阜医療科学大学)
担当 / (一社)岐阜県臨床検査技師会

岐阜県関市・小瀬橋前 (5月～10月)

白川郷合掌集落
(写真提供: 岐阜県白川村役場)

JA 岐阜 岐阜県厚生連

岐阜・西濃医療センター 揖斐厚生病院



濃尾平野の北西の端に位置する揖斐郡揖斐川町に建つ当院は、JA 岐阜厚生連（岐阜県厚生農業協同組合連合会）が運営する病院です。

昭和 27 年に揖斐病院として開設し、昭和 60 年に揖斐総合病院、平成 17 年には揖斐厚生病院に改称、そして平成 31 年 4 月からは、岐阜および西濃地域の医療提供体制の将来を見据え、診療連携の強化を目的とした機構改革が行われ、岐阜・西濃医療センター 揖斐厚生病院に名称変更となり、新たな一步を踏み出しました。

当院検査科は、病院理念のもと、自己研磨と高い専門性の維持、患者さんへの接客対応・サービスの向上、診療機能が円滑に稼動する運営を柱として掲げ、多職種との連携をとりながら、チーム医療の一端を担っています。技師は常勤・パート含め 14 名勤務しており、検体検査業務（血液・生化学・免疫・一般・輸血・細菌・病理）、生理検査業務、検診業務、採血業務、当直業務等を行っています。各検査部門におきましては、医師会・技師会等の外部精度管理、研修会・学会等にも積極的に参加し、常に正確なデータを迅速に 24 時間体制で報告できるよう日々努めています。また ICT、NST、心臓カテーテルチーム、検査適正化検討委員会、輸血療法委員会、糖尿病ケア委員会、化学療法委員会などチームの一員として活動しています。

4 月からは新人も入り新しいメンバーで、受診者の方に優しく、信頼される検査を通じて、地域医療に貢献出来るよう努力していきたく思います。よろしく願いいたします。

外川 綱生



発行所(一社)岐阜県臨床検査技師会

発行責任者 浅野 敦

〒500-8384 岐阜市藪田南3 丁目5 番地 10 コスタ岐阜県庁前 603 号
TEL 058-275-5596 FAX 058-213-0220

編集者 高崎 昭彦 松浦 康博 種村 久子
E-mail giringi-office@giringi.jp